

平成 19 年3月期第 1 四半期決算発表

平成 18 年7月 19 日 15:30～16:30

於：東京証券取引所東証ホール

お断り:このメモは、決算説明会にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、説明会でお話したことの全てを一字一句書き起こしたものではありません。当社IR・広報グループの判断で、簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。また、最終頁の注意書きもあわせてご覧ください。

【CFO 江間より決算概要の説明】

・会社法が施行され、決算発表の資料もフォーマットが少し変更になっています。

<第1四半期の連結業績>

経営成績

売上高:	926 億 18 百万円	(前年同期比、13.3%増)	※過去最高
営業利益:	272 億 40 百万円	(同、8.7%増)	
経常利益:	251 億 39 百万円	(同、8.5%減)	
四半期純利益:	214 億 99 百万円	(同、5.4%増)	※過去最高
1 株当たり四半期純利益	49 円 92 銭		

財政状態

総資産:	3,919 億 72 百万円
純資産:	2,887 億 34 百万円
自己資本比率:	73.4%
1 株当たり純資産	668 円 33 銭

キャッシュフローの状況

営業活動によるキャッシュフロー:	140 億 65 百万円
投資活動によるキャッシュフロー:	△148 億 25 百万円

・主に設備投資が用途です。

財務活動によるキャッシュフロー:	172 億 55 百万円
------------------	--------------

・4-6 月は社員への賞与の支払い、税金、配当金が集中する四半期なので、HOYA株式会社としてCP(コマーシャル・ペーパー)で 300 億円調達しました。

現金及び現金同等物期末残高:	1,004 億円 49 百万円
----------------	-----------------

・連結で見ると現預金は少し張っている形で見えています。

連結業績予想

中間期見込み

	当中間期予想 (百万円)	前年同期比 増減率(%)
売上高	187,000	12.2%
営業利益	54,500	9.4%
経常利益	51,500	▲5.4%
中間純利益	41,500	6.5%
1株当たり中間純利益(円)	96.36円	8.89円

・中間期売上高、営業利益、中間純利益が実現すると、過去最高となる見込みです。

第2四半期見込み

	当第2四半期予想 (百万円)	前年同期比 増減率(%)	当第1四半期比 増減率(%)
売上高	94,382	11.1%	1.9%
営業利益	27,260	10.2%	0.1%
経常利益	26,361	▲2.3%	4.9%
当期純利益	20,001	7.6%	▲7.0%
1株あたり四半期純利益(円)	46.44円	4.72円	▲3.48円

・第2四半期では、売上高、営業利益が過去最高になる見込みです。

四半期連結貸借対照表

- ・総資産 3,919 億円の内、流動資産が 2,389 億円で、その中で現預金は 1,004 億円となっています。
- ・会社法施行により、株主資本の部分のフォーマットが変更されています。旧法では少数株主持分は負債と資本の間に表示していましたが、新法ではこれを純資産の中に取り込んでいます。
- ・コマーシャル・ペーパーが 300 億円プラスで出ています。

四半期連結損益計算書

- ・海外の子会社の損益計算書は現地通貨で計算されており、これを日本円に読み替えて連結をします。為替の換算について、今年の影響を記載しています。当第1四半期は、US ドル、ユーロ、タイバーツともに円安に振れた結果、売上高で 16 億円、営業利益・経常利益でともに 14 億円、四半期純利益で 13 億円、これだけ体が膨らんだように見えています。売上高は 13.3%の増収にあたりますが、その内 2%は 16 億円の為替換算の影響です。実質的な事業活動は、11.3%の増収でした。事業別では、EO(エレクトロオプティクス)で8.8%、VC(ビジョンケア)で2.4%、HC(ヘルスケア)で1.4%です。営業利益も同様に見ると、為替の影響は 14 億円ですから、5.7%の増益要因です。為替の影響を除く事業活動ベースでの増益は 3.0%で、その内訳は EO で 1.8%、VC で 1.2%、HC で 0.2%でした。
- ・経常利益で減益となっていますが、これには営業外で2つの要素があります。前年同期は為替差益が 5 億 75 百万ありましたが、当四半期は為替差損で 16 億 68 百万円でした。為替を両方プラスマイナスすると 22 億 43 百万の減益要因でした。もう1つは持分法の投資損益が、前年同期は 11 億 31 百万円の利益でしたが、当四半期は 5 億 45 百万円の損失になっています。これをプラスマイナスすると 16 億 76 百万円の減益要因でした。これら2つの要因で、前年同期比で経常利益ではマイナスにな

ったということです。

- ・持分法の会社は、NHテクノグラスという会社で液晶のガラスを作っています。日本板硝子さんと50:50の合弁でやっている会社です。昨年12月までは黒字でしたが、今年の1-3月が赤字で、4-6月も赤字でした。
- ・税金は、当第1四半期は実効税率が13.2%になりました。過年度法人税等戻入額とその他を併せて8.8%の低下要因になりますが、これらは一時的な影響ですので、この分を割り引いた、21%前後が通常と考えられます。
- ・株主資本等変動計算書は、会社法にともなった新しいフォーマットです。株主資本のなかの利益剰余金に変動があります。配当で129億円の支出、役員賞与で64百万の支出、当四半期利益214億99百万の収入、自己株式の処分差損1億53百万円などが含まれています。
- ・キャッシュフロー計算書は、4-6月期は、配当金支払いや決算賞与資金などが集中する四半期なので資金的には忙しい時期になります。HOYA株式会社(単体)ベースで配当金の支払いや納税などがありますので、連結ベースで見ると十分資金を持っているように見えますが、親会社はお金が足りないのでCPで調達しています。

セグメント情報

- ・今までは、セグメント情報として、クリスタルとサービスを分けて表記していましたが、金額的にもほとんど%に出てこない金額になりましたので、「その他」という欄にくりしました。
- ・営業損益の増減額は、連結ベースで21億85百万円の増加がありました。内訳は、EOで14億円、VCで7億円でしたので、この2つのセクターが連結の増益に寄与しているということです。
- ・EOでは、当四半期の営業利益率は38.6%、前年同期と比べると3.4パーセントポイントのダウンです。前年同期の営業利益率42.0%が普通なのかどうかという議論はありますが、利益率的にはここが落ちたということです。利益率の低下の主な要因は、大型液晶用パネルのマスクの売価の影響、メモリーディスクのベトナム工場立上げに係る操業初期の固定費の負担、中国の携帯電話用レンズの工場のラインの増加による固定費の負担があります。HCでも、利益率は2.4パーセントポイントのダウンです。眼内レンズで欧州でマーケティングを積極的に行なっており、海外のマーケティングコストの増加、新製品に係るR&D費用の増加などにより、営業利益が前年同期比では少し落ちています。連結全体では、営業利益率29.4%で、前年同期は30.6%でしたので、若干の低下はありますが、全体的には頑張っているのではないのでしょうか。

製品別伸び率(実績)

製品群	当第1四半期 前年同期(1Q) 比伸率(%)	当第2四半期 前年同期(2Q) 比伸率(%) (見込み)	当中間期 前年同期比 伸率(%) (見込み)	当第1四半期 直前四半期(4Q) 比伸率(%)	当第2四半期 当第1四半期比 伸率(%) (見込み)
ブランクス	12.1	4.3	8.1	10.6	0.0
LSI マスク	1.9	▲3.4	▲0.8	▲2.0	▲1.2
LCD マスク	▲15.8	3.9	▲7.0	▲12.6	▲0.3
MD	41.6	35.9	38.6	6.9	4.8
光学	18.7	11.5	14.8	5.0	7.1
メガネレンズ	13.8	10.6	12.2	▲0.1	1.1
日本	0.3	1.8	1.1	2.1	9.7
北米	20.8	17.2	19.0	▲6.4	▲2.2
欧州	23.0	16.5	19.8	3.3	▲4.3
アジア	13.2	9.0	11.0	▲6.8	3.0

・日本のメガネレンズの第2四半期の当第1四半期比伸率(+9.7%)見込みは、季節性で夏はレンズがよく売れますので、大きく伸びるという見込みです。

【CEO 鈴木より業績概況の説明】

- ・決算としては、よくできたのではないかと考えています。想定範囲内でした。しかし、為替の影響と持分のところは想定外でした。これを除くと全般的には想像していたとおりに動いたという印象です。
- ・3ヶ月に1回説明していますが、3ヶ月ではそんなに状況の変化はないです。3ヶ月に1回の話だと、変化量が小さいのであてにならないこともあろうかと思いますが、データポイントの一つと捉えて聞いていただければと思います。

<半導体(LSI)製造用ブランクス/マスク>

- ・半導体では、ノードの変化が加速されたのではないのでしょうか。ステッパーの出荷量を見ていれば分かるかもしれませんが、ドライのArFも結構出ていたりして、ディスクリートやマイコンのところでもハイパフォーマンスな製品の需要が増えてきているので、「90nm」、「130nm」とか、思った以上にノード変化があったようです。予想以上に(チップのデザインとして)ArFが動いた感じですが、デザインとして、台湾が90nm、日本と韓国が65nmという方向に動いた四半期で、少し驚きでした。
- ・半導体ファブ、特に日本のファブは忙しい。新規の生産を入れるところがないくらい一杯のようです。200mmも300mmもなく大変というところでしょうか。台湾系のファウンダリーがスローダウンしています。何故かはわかりませんが、一説にはクリスマス製品向けのチップのリリースが遅れているとも聞いていますし、本来なら今頃にクリスマス用のチップデザインが動く頃なのに、実は少し前にすでに動いてしまったので、その反動で今少しかスローなんだ、という人もいます。何が本当かははっきりわかりませんが、俗に言うDVDや携帯、液晶のドライバーがスローで、ゲームやセットトップボックスが元気、というイメージです。思ったより来年向けのES(Engineering Sample)みたいなものが出始めているので、今年の方は前倒しで終わってしまったという理解の方が正しいのかなと思います。
- ・マスクでは45nmのところ真剣に動き出したところですが、単純な合わせ精度やCDの合わせ込みなどの非常に基本的なところがもう1度やり直しになるという話です。90nmの場合は光をちょっと曲げてや

ったり、物理現象を利用してというのが多かったのですが、45nmの世界になると元々の合わせとか、ステッパーの基本的なところから詰め直しという現象が起こっています。テクノロジーがどうのというのではなく、また全体を詰めていく感じです。基本的には45nmもドライで行くようです。

<液晶(LCD)用大型マスク>

・ひどかったのは5月で、ぴたっとマスクが止まりました。パネルも4月くらいから変調して5月くらいには、明らかに低調という感じはあったのでしょうか、それがマスクの需要とは論理的には連動しないでしょうが、気分的に開発品も一緒に止めてしまったのでしょうかね。総需要が下がったところで、パネル業界もマスク業界もキャパがどんどん増えて価格競争(去年から始まっていましたが、さらに厳しい競争)に入ったということです。特に1Qで大きく下がった感じです。大きなサイズのテレビでは、マスクメーカーも注文を取れば売上げが一気にあがって、逃すと作るものがない、という1かゼロの世界ですから、その辺の価格が落ち始める感じでした。まだこの状況は続くと思います。供給量が増えますから当分の間は、変動費を上回れば取りに行つて、赤字覚悟でやりますという状況が続くのかと思っています。パネルが余ってきたので、パネルの出来や質も気になるようになってきています。パネルの違いが売れる売れないに少しずつ影響してきています。設計仕様によると思いますが、メーカーさんによりパネルの作り方は異なりますので、品質で売れ方に違いが出てくる。品質に対する要求が厳しくなりそうなので、マスクの品質やスペックにも影響してきています。HOYAにとっては良いことかなと思っています。

<HDD用ガラスディスク(MD)>

・また品不足を起こし、お客さんの要求する量を出せなかった四半期でした。しかし、実需よりは多く出荷していたと思います。なので、明らかに在庫の作り込みの状態になっていると思います。実際にドライブとして売れている量を考えるとHOYAが出荷した量ではすでに多いと思われるので、流通在庫なりドライブ在庫なりPCに入れ込んだ在庫でも多いということです。よって、調整が入るだろうと思っています。この業界ではよく起こることですので、驚きはしませんが、それによって単価がどんどん落ちる。80GBなど先端のところの単価がどんどん落ちてくるということです。

・当社のガラスディスクの出荷は量が増えて伸び率40%台でした。デスクトップがノートに変わっているという要因もありますが、結構な量が出たのがゲームです。20GB(片面仕様)のゲーム用が結構出ています。

・収益率が落ちたのは、ベトナム工場の立上げが連続的で、いつまでも立上げをやっているという状態が続いており、ベトナムの量が多くなれば、歩留まりが悪い状態で動かしていたり、立上げの費用が乗っかってくるので利益的に足を引っ張っています。価格的には安定しています。一過性要因でしょう。一過性と言いながら続いているのですが、いずれはなくなるものです。

・垂直(磁気方式)が遅れています。問題があって、もうしばらく時間がかかる。秋くらいになる。当社はディスクを作る生産能力が足りないと思っていましたが、垂直が遅れているので、意外と設備的には追いついてきてしまった感じです。元々想定より1年は遅れていますので、キャパが足りなくなるような状態にはなりそうもないです。

- ・一時的な調整が入っても、まだデスクトップからノートに変わるのはしばらく続くと読んでいます。価格的にもほとんど同じくらいになってきましたし、まだまだエマージング市場(日本、米国、欧州以外の市場)のノート比率は10%台なので、もう少しノートの成長率が高い状態が続くでしょう。PC全体としては良くないです。

<光学レンズ>

- ・予想以上にデジカメを作っていますし、売れています。初期の頃買った人がここに来て3年目くらいになり買換え需要が出てきたのでしょうか、手振れ防止が浸透してきて、需要を喚起してきています。量的には前年対比で20%増くらいは多く作りそうです。さすがに昨年末大きな調整をしている業界なので、需要に即した形で作っていてそれほど在庫も増えていないようです。
- ・デジカメ用のレンズの規格が難しくなってきました。ピクセル数が増えて、薄めに作るなど、スペックが厳しくなって正直歩留まりで苦労しています。
- ・携帯電話用レンズも、増えてきています。収益的にはデジカメに比べるとまだ見劣りします。「そのうち追いつく」と言っている割には追いついていません。よって、この部分の量が増えてくると、ミックスとして収益の足を引っ張る形になります。
- ・光学の中で、カムコーダー用の研磨レンズは単価が下がりました。
- ・一番良かったのは、ガラスの固まり、素材を売っている部分です。

<ビジョンケアーメガネレンズ>

- ・日本がフラットか、ちょっと油断すると前年比でマイナスになりかねない状態です。ただ、部門全体で2桁成長しているの、海外が良くやっているということです。2桁でしっかり成長する地合(体制)が出来上がってきたのではと思っています。特に欧州(国別には色々ありますが)は上手く回っています。

<ヘルスケアー眼内レンズ(IOL) &コンタクトレンズ>

- ・利益率が下がっているのは、IOL絡みの研究開発の費用と、欧州で拡販していますのでマーケティング費用を使っているのが要因です。
- ・1Qで変化があったのはコンタクトレンズの小売で、4月1日付で薬事法が変わり、一部の安売り店は商売が難しくなっています。じりじりと市場での単価が上がっています。HOYAにとってはいい状況なので店舗を沢山作ろうかと思って、3週間に1店舗くらいの勢いで新規出店していますが、問題は人が足りないことです。しばらくはいい風が吹いているので積極的に店舗を作って行こうと思っています。

【質疑応答】

Q:HDDの調整、LCDマスクの弱さが続くということでは、「前半は利益厳しいけど、後半は回復する」と言っていたのは、後半の回復は後ずれするのか、それとも予想通り回復するのか？以前「コンセンサスが高すぎる」と言っていましたが、後半回復するという話であれば、コンセンサスの数字もそれほど高い数字ではないと思うのですがどうですか？

A: そう言いましたか? 「下期は暗い。雨が降る」と言った気がしますが? 2Qはそれほど大きな変化はないと思っていますが、下期は不透明、4Qが怖いです。各社同じことを考えていると思いますが、ブレーキがかかるのは4Qと見ています。向こう3ヶ月(2Q)で大きな変化はなく、そこまでは読めていますが、4Qが一番大きな変化がありそうですが、コンセンサスが出来てからコメントします。

(NHテクノグラスの話をしませんでしたので)NHは重症ですぐには回復しそうにありません。相変わらずガラスに小さな泡が入ってしまう。ある一定の比率で泡が入り、最近ではガラスが大きいものから歩留まりが取れない状態。そのような状態なので顧客も他社から調達しながら、NHから出ればNHから買うみたいです。台湾勢はパネルの生産を落としているので、倉庫にガラスがたまっているようです。そういうこともあって、NHはガラスの生産が出来ても売上が上がらない状態ですので、回復まで時間がかかりそうです。

Q: EOの-marginの改善具合や悪化具合を教えてください。光学以外の製品について前年度比、直前四半期比、それと今後の見通しについて教えてください。

A: EOで影響しているのはLCDマスクであり、他に立上げとか色々あってもやはり一番影響しているのはLCDマスクです。LCDで大きな穴が開いていますので、他の製品でリカバーをしながら今のEOの利益率に収めています。直前4Qは色々なことが起こっていましたので、4Qは比較参考にしない方がよいでしょう。

(江間CFOより)LCDマスクが足を引っ張り、HDDのサブストレートのベトナム工場のコストでマイナスに振れておりますが、トータルで見るといい水準になっています。4Qのときは光学が大きくやられましたが、材料を主体に回復しています。ここに来て光学の利益率とMDの利益率が並びました。いままでは利益率はブランクスが一番で、次に光学、MDと並んでいましたが、今はMDが収益的には結構寄与しています。ベトナムのコストも含んでの結果です。後は、レンズで見るとデジカメのレンズの売価と携帯電話レンズの売価には差がありますので、携帯電話用レンズが増えると収益的には落ちる傾向にあります。そう見ていただくと強弱が鮮明になると思います。ブランクスは比較的売上げも伸びており、利益的にも満足する数字が出ています。2QのEOの利益率も38%台がいいところではないでしょうか。

Q: 前回の説明会で、「3ヶ月先までは大丈夫だが、暗雲が立ち込めている」と言っていましたが、その当時と比較して今の状況はどうでしょうか? 特に前回は半導体に関して雲行き怪しいとおっしゃっていましたが、今、鈴木社長は半導体業界をどう見ているか教えてください。

A: 半導体も下期は怪しいと思っています。量というよりは単価的に心配です。利益が上がっているチップの値段が下がりそうです。業界全体の収益として下期は心配です。PCも携帯電話も悪いでしょうし、割とキャパが膨らんでいきますので、良い傾向ではないです。液晶もよくなりません。良くなるのはもっと先でしょう。世の中一般では、下期(年末)にかけて雲行きがあやしいのはそういう考えが定着していることでしょう。

Q:EOの各製品の現況をご説明いただきましたが、それを受けて会社としてどのような対策を考えているのか教えてください。

A:LCDマスクは中長期的に見て、色々画策していますが、一夜で結果が出るような戦略ではなく時間をかけて行くつもりです。HDDは一過性の問題ですので、そんなに構造上変わるということではないので、心配はしていません。NHは、技術的な問題なのでどう変わるかはわかりませんが、一時期に比べると良い窯と悪い窯が明確になってきたので、ある方向性は出てきたのかなと思っています。ただ、いつ直るかははっきり言えません。市況が悪くなっているなので、今更5Gをやっても儲からない。技術的には高い方へと行かないと収益は出てこない。市場環境もハードルが高い方へ移行しているのでそう簡単に解決するとは思っていません。

当四半期が意外と良かった決算であったというのは、EOに対してメガネやコンタクトを同じような成長率で伸ばしていきたいと従来から考えており、当四半期はそのとおりになったということです。EOだけをどんどん伸ばしていくというのは会社を運営する立場からすると少しやりにくい面がある。ある程度安定した消費財も担保していきたいという思いがあります。利益率が違うのだからと言われるかもしれませんが、会社を運営する立場からすると少し安心感のある形になったのかなという感じです。

Q:今年の減価償却と設備投資の年間の見込みのイメージと、HDDのキャパが年間でどのくらい増えるのか教えてください。

A:(江間CFO) 前回、検収ベースで設備投資が500億円で、償却額が370億円とお話しました。償却は変わりありませんが、設備投資が500億円より少し増える可能性があります。検収のあと翌月支払います。日本だと、検収の後120日後の支払いです。設備投資は昨年、今年と増えています。

(鈴木社長)ハードルが高くなっています。売上げが落ちると固定費が膨らんできているので、意外と傷も大きいですが、今は仕方ないと思っています。今は、ある程度固定費が増えてもなんとか売上げを上げるしかないと思っています。投資の大部分はHDD関係です。HDDは、現在40%くらいで成長していますが、今後もそれに近い成長をしていかないと固定費を吸収できないと思います。基本的には年間通してそれなりにアグレッシブな見通しで進めています。物が足りないという状態を作るのはあまりよいことではないと思っていますし、お客さんの要求する量を出せる状態にしていきたいと思っています。

以上

本資料中には将来の当社の業績・当社を取り巻く業界の環境に対する予想の部分があります。これは当社および当社グループが現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりましたが、リスクや不確実性を含んでおり、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。従いまして、これらの予想の部分に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績・業界環境は、様々な要素により、これら予想とは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果に対する責任は負いかねますのでご了承ください。